

# 名勝涉成園ならびに名勝無鄰菴での 生物多様性に繋がる庭園管理

植彌加藤造園株式会社/自然文化サービス部/後藤香奈



## 植彌加藤造園について

— 不易 — 永遠に変わらない伝統や芸術の精神  
「変えてはならないもの」

— 流行 — 新しさを求めて時代とともに変化するもの  
「変えなければならないもの」

景色をはぐくむ

庭をはぐくむ  
つくる

庭をつなぐ

庭を活かす

庭園部  
計画設計部

自然文化  
サービス部

知財企画部

指定管理部

けいはんな記念公園、無鄰菴、岩倉具視幽棲旧宅、お東さん広場

## 名勝涉成園での取組

涉成園とは

東本願寺の飛地境内地の庭園。1641(寛永18)年に三代将軍・徳川家光から当地(約1万坪)が寄進され、石川丈山の趣向を入れた作庭がなされました。庭園には四季折々の花が咲きほこり、変化に富んだ景観は「十三景」と称されています。1936(昭和11)年には、文人趣味にあふれる仏寺庭園として、国の名勝に指定されています。

〔令和6年前期 自然共生サイト認定〕

- 寺社および名勝庭園として、全国で初めて認定
- 在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値
- 希少な動植物種が生息している可能性が高い場としての価値



### 01.南大島の育成管理

- ①庭園外縁部から徐々に草刈りを始め、南大島以外の下草を刈り取る  
→南大島に庭園中の秋の虫が追い込み南大島から虫の声が聞こえるような空間を創出しています。
- ②南大島には冬も白く揺れる冬枯れのススキ群を残す  
→石組みとのコントラストが美しく、刈り残した株本では昆虫の越冬を確認しています。



### 02.松林の育成管理 -敷松葉-

松林エリアに松葉を敷き詰め、湖岸の自然風景に見立てるとともに土壌を弱酸性化させ、松が好まない雑草の繁茂を抑制・クロマツ樹勢への好影響を期待しています。



### 03.野花の育成管理 -園日渉而以成趣-

創設当初に描かれた庭園のコンセプトに則り、郷愁をさそう田園風景、心安らぐ場所をイメージする育成管理を実施  
→初春前に下草を刈り、春の草は刈らず野原の景色を生み出しています。



### 生きもの達とのふれあいの場 -自然観察会-

〔東本願寺と環境を考える市民プロジェクト〕  
スタッフとして参画している当団体では、涉成園の自然を楽しんでいただけるような自然観察会を行っています。



## 名勝無鄰菴庭園での取組

近代日本庭園の傑作 無鄰菴とは

無鄰菴は、明治27年(1894)～29(1896)年に造営された明治・大正時代の政治家山縣有朋の別荘です。庭園と母屋・洋館・茶室の3つの建物によって構成されており、庭園は施主山縣有朋の指示に基づいて、七代目小川治兵衛により作られた近代日本庭園の傑作。それまでの池を海に、岩を島に見立てる象徴主義的な庭園から、里山の風景や小川そのものような躍動的な流れをもつ自然主義的な新しい庭園観により造営されました。南禅寺界隈別荘群の中で唯一通年公開されている庭園で、昭和26年(1951年)に国の名勝に指定されています。洋館の2階には、伊藤博文と山縣有朋が日露開戦前の外交方針について話し合った「無鄰菴会議」に使われた部屋があり、当日の様子を今に伝えます。

施主である山縣有朋が大事にした庭園の持つ固有の価値(本質的価値)を知ることで、想いや感性のこもった情景を作っていく育成管理を目指しています。

〔恩賜権松乃記(以下、現代語訳抜粋)〕

川底が澄んで魚がひれを振る様子が見える。  
苔の緑の中に名前も知らない草の花咲き出ているのがすばらしい。  
水に横たわる風の枝にかわせみが来て魚をうかがう様など、とても見所が多い。

### 01.流れ -琵琶湖疏水による豊かな疏水ネットワーク-

琵琶湖疏水が開通され、岡崎地域境界は流れのある自然風の日本庭園が次々と作られました。水路が網目のように張り巡らされ、庭園の池には疏水を通して琵琶湖を水源として由来とする生きものも流れ込み、市街地内の貴重なハビタット(生息場所)となっております。

心地よりせせらぎを庭園に響かせる流れは定期的な掃除が必要ですが、底に繁茂している藻や砂礫などは、場所を考え不要量のみ取り除き、多様な生きものが生息する環境のバランスを崩さないよう努めています。



### 02.野花を生かした生き生きとした庭園

平成27年に調査を行い、芝生内の草本類35種を同定。『鑑賞するもの：野花』『芝生に影響を与えるため除草するもの：雑草』と定義し、野花の振分け・種別データ・除草方法を整理、育成管理に活用しています。



### 生きもの達とのふれあいの場 -野鳥ミニ講座-

お庭の「主山」東山やその近隣で見られる野鳥の生態や習性、マメ知識などをお庭の10分ガイドとともに楽しくご紹介しています。

## 取りまとめ

「街」とは、人と生きものの活動拠点が特に重なる場所・繋がる場所です。日本庭園は歴史ある京都には多く存在し、樹木や花、水辺などの自然が存在し「森里街川」に存在する生きものものの通過場所・一息つく場所・住処になっています。

街の中の貴重な生物多様性エリアである日本庭園。これから先も文化的に大切にし、生きものにとっても心地良い環境であるよう、庭園の育成管理を続けていきたいと思います。